



一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第72号
令和7年9月12日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail : itijo-e@fukui-city.ed.jp

大桑小学校との交流活動

昨日、岐阜県山県市立大桑小学校とのオンライン交流会が行われました。10月1日(水)に大桑小学校4・5・6年生が来校し交流するための事前活動として行いました。令和3年度に始まった交流は今年で5年目を迎えますが、歴史のつながりで始まった交流をこれからも続けていきたいという大桑小学校や山県市教育長の強い思いがあり、今回の交流に至っています。

今回のオンライン交流会は昨年度の交流以来となりますが、画面越しでも子どもたちはすぐに打ち解け合い、楽しく交流を行っていました。当日、どのような交流会になるのか楽しみです。

《大桑小学校と一乗小学校の出会い》

令和2年に放送されたNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、土岐一族の居城大桑城と、越前朝倉氏一乗谷との深いつながりが描かれました。朝倉氏の娘が土岐氏に嫁いだり、貴重な笏谷石でできた狛犬が十五社神社に贈られたりしたことなど、土岐氏と朝倉氏の関係性の深さが見られました。

そこで、当時の大桑小校長が、校区に一乗谷朝倉氏遺跡のある福井市一乗小学校との交流を依頼したところから、この交流が始まりました。一乗小と大桑小が歴史教育で連携し、地域の課題や学校の課題を解決していくことで、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献する児童を育成することにつながるという、両校の思いが一致し、交流の実現となりました。

さらに、大桑地区も一乗地区同様に、児童数の減少による学校規模適正化の対象であり、学校再編により地域社会の核が失われ、地域が衰退する恐れがある地域です。一乗小と大桑小の児童の交流を継続することにより、今後は地域住民の直接交流につなげ、文化財の広域化を図ると共に、地域活性化へつなげたいという思いがあったようです。



大桑小児童数は、昭和21年の452人を最高に減少が続き、令和7年度は42人です。そして、一乗小児童数は、昭和24年の294人を最高に減少が続き、令和7年度は17人となっています。両校の課題として、全校児童の減少傾向と複式授業、少人数のため全ての活動に工夫が必要なこと等が挙げられます。両校同じような状況下で交流が続いていますが、令和3年度初めて交流を行ったときの成果が以下のように記録として残されていました。

令和3年交流の記録より（大桑小記録より抜粋）

《一乗小との交流を通して得た学び ～堂々と語る姿に刺激を受けて～》

11月8日、大桑小児童が一乗小を訪問し、交流活動を行いました。最初に驚いたのは、一乗小の児童が大きな声で「よろしくお願いします!」と元気よくあいさつしてくれたことです。その声の力強さに、大桑小の児童は圧倒されるほどでした。

交流の場では、一乗小から提案されたスポーツ大会が行われ、児童同士が楽しみながら親睦を深めました。昼食時には「一乗小クイズ」が出題され、笑顔あふれる和やかな時間となりました。

午後には、一乗谷朝倉氏遺跡復原町並の案内を一乗小児童が担当。堂々とした説明に、大桑小の児童は感心し、地域の歴史を学ぶことの大切さを実感しました。案内を聞いていた大桑城跡を守る会の会員やPTA会長も、「麒麟がくる」放送後の学校活動への思いを寄せていました。

保存協会長の「目的は上手にガイドすることではなく、人前でも臆せず堂々と話せるようになること」という言葉にも、大桑小児童は大きな刺激を受け、帰校後には、一乗小の児童のように「大きな声で自信をもって話そう」と意識する児童が増え、交流の波及効果が見られました。

◇ 一乗小の児童から学んだこと（児童感想より）

はきはきと話す姿勢

堂々と相手の目を見て話す姿や、遺跡の紹介を暗記して説明する姿に感銘を受けました。

会話をつなげる力

沈黙にならないよう話題をつなげ、相手を気遣う姿勢が印象的でした。

臨機応変な対応力

プレゼンへの即時の反応など、柔軟な対応が見られました。

協力性・親和性

スポーツ大会では、助け合いながら協力する姿が素晴らしかったです。

◆ 活動を通して見えた成果と課題

今回の交流を通じて、同じ課題を持つ学校同士が協働することで、地域とともにある学校づくりのヒントを得ることができました。何よりも、児童たちの笑顔が終始見られ、楽しそうに活動していたことが大きな成果です。また、一乗小の児童が休みの日に自主的に資料館や保存協会を訪れ、調べ学習をしていることにも驚かされました。地域資源とのつながりが、継続的な学びにつながっていることを実感しました。

今後、大桑小の児童も地域の歴史を学び、他者に伝えることで自信を深め、「語れる子」へと成長していったほしいと願っています。PTA としても、地域の宝である子どもたちの健全育成のため、学校と共に力を尽くしてまいります。

《大桑小学校と一乗小学校 学校紹介から》

山県市立大桑小学校

大桑地区は約五百年前、美濃国守護の土岐氏の居城である大桑城とその城下町であり、市場などの地名が残っている。福井県一乗谷の朝倉氏の娘が土岐氏に嫁いだり、足羽山産の貴重な笏谷石で作られた狛犬が十五社神社に現存したりするなど、大桑と一乗谷の歴史的なつながりは深く、大桑地区には歴史的価値が高い文化財は多い。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」で大桑城が脚光を浴び、大桑城跡を訪れる観光客も増えてきた。毎年開校記念行事として親子で大桑城跡がある古城山登山をしている。そこで、市内の歴史的価値のある文化財を通じた広域連携を視野に入れ、大桑小児童が大桑の歴史と一乗谷との歴史的なつながりを理解すると共に、一乗小との交流を通して、同じ課題をもつ小学校同士が連携し、地域の課題や学校の課題を解決していくことで、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献する児童を育成することにつながると確信している。



R6 修学旅行集合写真

福井市一乗小学校



R5 交流活動の様子

市街地から南東へ約8km、一乗谷で知られる山間の地である。谷の東側を一乗谷川が流れ、カントウタンポポ、ノアザミ等が一面に咲きほこる。またゲンジボタルの生息地としても知られる景勝の地である。校歌に「史に名を得し一乗の……」と歌われているように、ここ一乗谷は地勢的にも見事な要害の地となって、学区全体が国の三重指定（特別史跡・特別名勝・重要文化財）を受ける史跡で、歴史的環境にも恵まれている。その朝倉氏遺跡に最近では全国各地からの観光客が増加している。令和元年には、朝倉氏遺跡や白山平泉寺が、市内で採掘された笏谷石が使われている文化財として日本遺産に認定されている。NHK大河ドラマ等で朝倉氏がたびたび重要な人物として登場

するが、令和2年「麒麟がくる」では朝倉義景が光秀の庇護者として登場した際、光秀が一時期、朝倉家に仕える設定で朝倉氏館等、当時の生活の様子が描写されたことにより、遺跡への注目度がさらに高まった。また、令和6年には第47回全国育樹祭が一乗谷朝倉氏遺跡をメイン会場として開催され、同年、一乗谷朝倉氏遺跡博物館マスコットキャラクターのシシカゲと一乗子ども観光大使が協力協定を結んでいる。

..... 切り取り

学校へのご意見やご感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→

年 名前

（無記名でも構いません）

